

所々御代官中

壹通宛相渡

〔牛馬定目留書〕覺

一今度牛御改被成候付、向後他領へ賣拂候はゞ、御役錢壹步ニ付而六拾五錢宛、小荷駄馬同前取上、他領判者兩御馬也、御別當判鑑所之御境御番所江兼而遣置候間似鳥甚右衛門、美濃部長右衛門、大崎二郎兵衛、判形紙札相渡置可申、右紙札へ他領出牛員數所御代官書付添狀にて不依何方御境通し可申候、御馬別當判鑑に引合改、他領出可仕候由、牛引出候ものに可被申渡候、一八戸御領より此方へ買出し、他領へ出し候牛者、何方不依、一箇所にて前書之通御役錢取上、送添狀他領へ出し可被申付候、牛直段者相知間敷候間此方御領にて賣買有之候牛、上中下之直段に指積、御役錢取上可申候、右御役錢添手形にて五割所へ差上可申、尤此方仲間江茂御役錢員數書付可被指渡候、右之通、今度御老中へ被仰付候間可被得其意候以上、

寶永三年四月五日

御用人中印判

所々御代官

覺

只今迄女牛多他領へ出候様相聞候、向後女牛は少相出し、男牛は女牛より餘程相出候而も不苦候間遂吟味相出可申候、

四月

〔牛馬定目留書〕覺

一駒貳歳駿、佐目鶴毛、河原毛、尾白、黒毛猿佐目、水青、此類にて能馬五疋御用に候間、御馬代は前々御定之通買上可被申候、縱中之駒に候共、右之毛にて無疵に候はゞ、買上可申候、馬一切惡敷候